

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (●月●日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒の資質・能力を向上させるため、ICTを活用した組織的授業改善に取り組む。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①1人1台端末の活用を推進するとともに、校内ICT環境の整備を進める。</p> <p>②新学習指導要領の3年目の実施を見据え、進路希望を実現させるための学習指導の課題に対応していく。</p>	<p>①授業改善のテーマとして1人1台端末などICT活用を提示し、日常の授業での活用を進める。またそのモデルとなる公開研究授業を組織的に実施する。特にハード面でのICT環境の整備を進める。</p> <p>②進路希望を実現させるための学習指導の充実や適切な履修指導等の課題に対し、各教科や関連グループと連携して対応する。</p>	<p>①授業評価で生徒がICT活用を実感しているか。ICT活用の具体例を共有することができたか。ICT環境が整備されたか。</p> <p>②課題に対し、各教科やグループと適切に連携をとることができたか。</p>					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①校内や地域におけるルールやマナーを確認させ、生徒自身が自らを律しながら行動できるようにする。</p> <p>②職員間で生徒情報の共有を密にするとともに、新たに配置されたSSWを積極的に活用し、「かながわ子どもサポートドック」を踏まえたプッシュ型の相談体制を整える。</p> <p>③学校行事の企画・運営を生徒主体で行えるよう支援し、他者と協働して企画を運営していく過程で協調性と責任感を高める。</p> <p>④新入生の部活動加入率を向上させるとともに、部活動生徒を学校行事に深く関わらせることで自身の成長につなげる</p>	<p>①生徒や保護者、地域の方などからの意見を踏まえて校則を見直し、生徒にとって守るべきルールを自覚できるようにする。</p> <p>②昨年度から継続しているSCと今年度から配置されたSSWの連携を図り、生徒にとって適切な支援を行う。</p> <p>③生徒会主催行事の企画・運営を生徒会を中心に、委員会や部活動と連携しながら運営できるよう支援する。</p> <p>④部活動紹介を効果的に行えるように、生徒会役員や各部と連携をとりながら広報活動を行う。部活動生徒を生徒会主催行事の運営する側に加え、実施できるよう支援する。</p>	<p>①遅刻や身だしなみについて、自らの行動を見直すとともに規範意識を高めることができたか。</p> <p>②SCやSSWと連携し、生徒情報を共有しながら、生徒一人ひとりに応じたプッシュ型の相談体制を構築し、支援を行うことができたか。</p> <p>③生徒会主催の学校行事を生徒主体で企画・運営することができたか。</p> <p>④新入生の部活動加入率が前年度より上がったか。生徒会主催行事の運営に部活動生徒を取り込むことができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (●月●日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①生徒の進路希望実現のため、生徒・保護者への情報提供をきめ細く行い、丁寧なキャリアカウンセリングを実施する。  ②教員の授業改善やICTの利活用等により、これまで以上にキャリア教育の充実を図る。	①教職員対象の研修会を開催し、生徒・保護者への情報提供をできるだけ多く共有する。また、保護者への情報提供の機会を積極的に設ける。  ②授業がキャリア教育の大きな要素であることを意識し、積極的に生徒のキャリア形成に努める。また、Google Classroom等を活用し進路情報提供を推進するとともに、生徒のICT活用による学習習慣確立を促す。	①多様な進路に向けての研修会を開催し、教員間で十分な情報共有ができたか。また、保護者への進路説明会等を開催し、情報提供をすることができたか。  ②日頃の授業でも生徒にキャリア形成を意識させ、将来の在り方生き方と繋げた学びを行わせることができたか。					
4 地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①地域との協議により、感染症対策に配慮した地域交流を企画し、実践する。  ②学校生活が「コロナ以前」に戻る中、本校本来の活発な教育活動を分かりやすく積極的に発信することで、地域からの信頼を得る。	①感染症対策を徹底し、地域のイベント支援、ボランティア・清掃活動等に多くの生徒が参加できる環境をつくる。 ②学校説明会や学校見学会の受け入れ人数を増やし、対面での情報発信の場を多くするとともに、ホームページの更新回数も増やす。	①地域との交流に参加した生徒の7割以上が貢献意識を高め、人間的成長を感じることができたか。 ②学校説明会等の受け入れ人数を十分に確保するとともに、ほぼ同量同質の情報をホームページから発信することができたか。					
5 学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故・不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。  ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①感染症対策を含めた衛生管理体制と防災体制を推進し、強固な体制を構築する。  ②ワーキンググループを中心に分教室と連携を図り、教育活動融合計画を策定する。  ③常に当事者意識を持ち、不祥事ゼロを実現する職場づくりを行う。  ④休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	①国や県の対策をふまえて、体制を整備し、生徒への保健指導を徹底する。  ②教育活動の融合を図るにあたり、課題を整理し解決する。  ③不祥事防止研修や事例紹介、セルフチェックを継続して実施する。  ④衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計を把握して、職員に啓発する。	①清掃活動・消毒作業等を徹底し、校内での感染防止につなげたか。  ②教育活動融合計画を策定し、初年度の取り組みとして適切に運用できたか  ③当事者意識の高い職場をつくり、不祥事ゼロを達成できたか。  ④昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。					

